慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	10の小品・ 牛久 : きおくうた(いちはらアート×ミックス2017作品提案書)
Sub Title	Десять малых сочинений Усику : Песня памяти(Заявка на участие в" Итихара Арт×Микс 2017")
Author	後藤, 一樹(Goto, Kazuki) 坪井, 聡志(Tsuboi, Satoshi) 高山, 真(Takayama, Makoto) プリサコワ, ありな(Purisakowa, Arina) 岡原, 正幸(Okahara, Masayuki)
Publisher	三田哲學會
Publication year	2017
Jtitle	哲學 No.138 (2017. 3) ,p.175- 191
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 : アートベース社会学へ 寄稿論文
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000138-0175

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

いちはらアート✖ミックス 2017　作品提案書*

10 の小品・牛久

――きおくうた――

後藤一樹，坪井聡志，高山　真，
プリサコワありな，岡原正幸

Заявка на участие в “Итихара Арт×Микс 2017”
«Десять малых сочинений Усику “Песня памяти”»

Кадзуки Гото, Макото Такаяма, Сатоши Цубои,
Алёна Прусакова, Масаюки Окахара

1. Концепция произведения
2. Описание произведения
3. Процесс постановки
4. Материалы и размер
5. История произведения

コンセプト

牛久商店街に生きる人々が《まちのきおく》を歌うことで，街の歴史が他者に開かれ，新しい息吹を吸い込みながら歌い継がれていくこと――．これが私たちのコンセプトである．

牛久商店街に暮らす商店経営者やその家族には，それぞれに「**生きられた歴史**」がある．私たちは，小湊鉄道線の発展とともに栄えた昭和の商店

* 本稿は，中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス実行委員会事務局「いちはらアート×ミックス 2017」公募係宛に，2016 年 5 月 30 日に郵送によって応募した，A3 用紙 9 枚の「作品提案書」を再録したものである．

プリサコワありな・作

街の暮らしを中心に，彼・彼女らの歴史物語を聞き取り，それらを歌詞にし，曲をつけ，歌にして共にうたう（本頁のプリサコワありなによるイメージ図参照）．私たちのアート作品は，そうした「**歴史実践**」から生み出される．

私たちは「**オーラル・ヒストリー**」と「**作曲**」の２つの方法を用いて，10 店舗の家族の《**きおく・かたり**》を 10 の《**きおく・うた**》に作品化する．《きおくうた》は芸術祭期間に披露されるとともに，各商店の店先で流される．私たちの作る歌は，商店ごとの個性を帯びるが「商品」価値を持たない．それは，ささやかな歴史の「**小品**」として，商店街の歩行者に歌いかける．

《きおくうた》は，街の外部の人間との関係性を自らの生命源としながら紡がれていく．そのプロセスの中で，私たち制作者や歌を聴くオーディ

エンスも街の歴史に記憶されるのである．

作品の内容

私たちの作品の基底には，商店街の人々の「**オーラル・ヒストリー（口述史）**」がある．私たちはそれを（A）「**物語の次元＝歌詞**」と（B）「**素材としての声＝サウンド**」の次元において作品化する．

（A）は，商店街の10店舗の家族の物語を歌詞にし，それらに曲をつけた《10のきおくうた》である．さらに，それぞれの口述史に通底した街の物語を歌詞にし，メロディーをつけた《牛久商店街のテーマソング》も最終段階で制作される．芸術祭期間に，牛久商店街にありながら祝祭的な空間（祭りで使われる神社など）で，《10のきおくうた》と《牛久商店街のテーマソング》を地域住民が歌い，河崎純のバンドが伴奏する．歌と伴奏は生演奏で行なわれる．

（B）は，街の人々が歌った《きおくうた》とともに，インタビューの際に録音した聞き取り対象者の「声」とバイノーラルで録音した商店街の「環境音」をミックスした《10のサウンド・アート》である．それらは，芸術祭期間中に10店舗それぞれの店先でBGMとして流れる．《10のサウンド・アート》は，「きおくうた披露公演」に来訪者を誘う仕掛けとしての役割も果たす．

私たちは，（A）と（B）をともにCDにして，商店街の10店舗と他の店舗にお配りする．芸術祭が終わっても，商店街の店先で長く活用していただくことを望んでいる．

本作品を完成させるには，牛久商店街全体の協力が欠かせない．私たちは，本年4月27日に「牛久商店会」の会議に出席し，役員6名に対して本企画のプレゼンテーションを行なった．その際，牛久商店会からは「商店街をあげて本企画を成功させたい」旨のご賛同を得た．10店舗のセレ

クションについては，牛久商店会と相談しながらおこなうことになっている．

制作方法

私たちの制作方法は，一言でいえば，「オーラル・ヒストリアンが口述史をもとに歌詞をつくり，ミュージシャンが曲をつけ，地元の人が歌う」というものである．

本アートは次のような５つの手順に沿って制作されるため，それぞれの制作方法に特徴がある．

Ⅰ．岡原研究室が，オーラル・ヒストリーの手法をもちいて，牛久商店街に暮らす人びとの生活史を丹念に聞き取る．
Ⅱ．岡原研究室がオーラル・ヒストリーをもとに歌詞を作り，河崎純が曲をつけ歌を制作する．
Ⅲ．制作した歌を，聞き取り対象者を中心とした商店街の人々が，街のステージでうたう．
Ⅳ．聞き取り対象者の語りの「声」や商店街の「環境音」を素材として，サウンド・アートを制作・録音，芸術祭期間中に BGM として各店舗で流す．
Ⅴ．全作品を記録・保存した CD を制作する．

以下で，それぞれの制作方法をより詳しく説明したい．

【Ⅰ】

オーラル・ヒストリーは，社会の構造変化や社会意識の変容を，市井に暮らす個人の生きられた歴史の視点から読みとこうとするものである．こ

の方法を牛久商店街の歴史に適用するならば，聞き取り対象者の生い立ちから現在に至るまでの個人的な人生の物語の視点から，牛久商店街や市原市の歴史を掘り起こしていくことになる．私たちはこうした方法を用いて，聞き取り対象者と祖父母・両親・子供・孫との関係，隣近所との関係，隣町の住民との関係，店に訪れる客との関係などの時代ごとの諸変化に着目して，語りを引き出していく．牛久商店会役員によれば「この商店街の歴史はせいぜい百年ほど」（2016年4月27日，牛久商店会会議にて）であるという．私たちは，およそ百年の間の四世代ほどのファミリー・ヒストリーを聞き取り，牛久商店街の栄枯盛衰と未来への展望を描き出す．

【Ⅱ】

歌詞の制作方法については，2016年4月27日と5月3日に，私たちが聞き取りをさせていただいた「時田酒店」の白井五穂枝さんの語りを事例に解説したい．

白井さんが目を輝かせて語るのは，彼女が生まれ故郷の月崎より時田酒店に嫁いできたころ，牛久地域の3つの地区で競うように神輿が担がれ，歩行者天国が多くの人で賑わっていた夏祭りの話である．夏祭りでは毎年，頭（かしら）が血を吐くほどの気の入れようで祭りの運営に取り組み，若い衆には熱気があふれていた．祭りの準備期間から本番を通して，毎日のように店の酒が売れ，飲みすぎるお客を彼女が心配してたしなめるほどであった．また，彼女が少し恥じらいながらも楽しそうに語るのは，大酒飲みで有名であった三代目店主の義父の話である．義父は孫が生まれるころには酒を断ち，地域の奉仕活動を熱心におこなうようになり，街の人に愛されながら亡くなったという．

白井さんの語りからは，「牛久商店街の夏祭りの活気に満ちた情景」や「時田酒店の三代目主人の愛すべきキャラクター」がありありと浮かんでくる．そして，「人が動くときに酒が動く」商店街の経済構造や酒を介し

た人々の交流が見て取れる．私たちはそうした歴史的，社会的，そして人間的な物語から歌詞を制作していく．

歌詞がある程度出揃った時点で，河崎が 2 名ほどの音響専門家とともに歌のメロディーを制作する．河崎自身も聞き取り調査に通い，聞き取り対象者や各店の個性を体感したうえで作曲に取り組む．

【Ⅲ】

楽曲が出来次第，牛久地域のコミュニティ・スペースで，歌い手たちの稽古をおこなう．《きおくうた》の歌い手としては，オーラル・ヒストリーの聞き取り対象者のほか，商店街の地域住民を想定している．小さな子供も含めた 15 名ほどの老若男女の構成がよいと思われるが，基本的には応募者全員に参加していただきたい．稽古のペースは月に 1, 2 回程を予定している．河崎の主宰するワークショップ・アンサンブル音楽詩劇研究所から歌手 1 名・演奏家 1 名が参加し指導を行う．稽古は単なる五線譜や特定の歌唱法を用いた合唱のトレーニングではなく，歌い手の創造力を引き出すワークショップ的なセッションである．歌い手の声の表現の多様性や即興表現を用いて，歌そのものの変容を歌い手が楽しむようなワークショップにする．

そして，芸術祭期間に，牛久商店街の中心的な空間で，歌い手と河崎のバンドが牛久商店街の《10 のきおくうた》を披露する．バンドは河崎がコントラバスでベース音を弾き，ギタリストがフォークギターとエレキギターを奏でる．商店街地域に暮らす吹奏楽経験者のバンドへの参加も歓迎する．

【Ⅳ】

サウンド・アートは，以下を素材にして 10 店舗ごとに制作される．①稽古中に録音した《きおくうた》をアレンジしたもの，②ボイスレコー

ダーに録音した聞き取り対象者の「声」，③バイノーラル機材で録音した商店街の「環境音」である．

芸術祭期間中には，各店舗の店先にCDラジカセを置き，サウンドをBGMとして流す．また，ラジカセの横には，時系列的にまとめられた各店の口述史と店の歴史的な写真数枚（以下の写真を参照）を掲示したパネルを展示し，来訪者が店の歴史を感じられるようにする．パネルの前には，①作品コンセプト，②サウンド・アートが完成するまでの制作プロセス，③「きおくうた披露公演」の概要と日時・場所を記したフライヤーを各店ごとに100枚置く．

■店先の展示パネルに掲示する「店の歴史的な写真」の参考事例（白井五穂枝さんよりお借りした時田酒店の写真）

↑古い時代の時田酒店

←終戦直後に，「正規の酒を」の看板を掲げたオート三輪に乗って，酒を販売してまわる三代目ご主人（写真左側の人物）

↑祭りが盛んだったころ，神輿の前に集まる若い衆たち（昭和 50 年代）

↑酒店でお茶を売ることを試みる五穂枝さんご本人（写真右側の人物）
「茶」の文字は，五穂枝さんの自筆（昭和 50 年代）

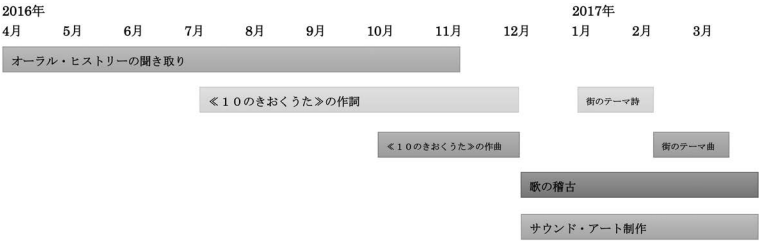
【V】

活動全体の総括として，《10 のきおくうた》と《10 のサウンド・アート》，そして《牛久商店街のテーマソング》を CD にし，制作に関わった関係者に贈呈する．

素材・サイズ

展示パネル用バナースタンド（素材：ターポリン，サイズ：横 60 cm×縦 180 cm）

制作スケジュール



2016年

【4月】◆岡原研究室が聞き取り調査．◆商店街の環境音を収集・録音.

【7月】◆岡原研究室がオーラル・ヒストリーをもとに《きおくうた》を作詞.

【10月】◆河崎純が歌詞をもとに《きおくうた》を作曲.

【11月】◆「きおくうた披露公演」の出演者募集.

【12月】◆月１回の歌の稽古．◆河崎がサウンド・アート制作.

2017年

【1月】◆岡原研究室が《牛久商店街のテーマソング》を作詞.

【2月】◆河崎が《牛久商店街のテーマソング》を作曲

◆展示パネルとフライヤーの作成.

【3月上旬】◆展示パネルとCDラジカセの設置方法を各店と相談.

【3月中旬】◆歌の稽古のペースを週１回に.

【3月下旬】◆きおくうた披露公演リハーサル.

【4月１日～5月７日（芸術祭期間）】

◆展示パネル，CDラジカセ，フライヤーを各店に設置

◆サウンド・アートを店先で流す.

◆きおくうた披露公演.

【芸術祭終了後】

◆《きおくうた》と《サウンド・アート》を収録した CD を，聞き取り対象者，公演出演者，商店街関係者に贈呈.

◆聞き取ったオーラル・ヒストリー，制作した歌，芸術祭での公演等に関してまとめたブックレットを作成.

◆芸術祭終了後も，岡原研究室（大学院ゼミ）は岡原研究会（学部ゼミ）とともに，牛久での対話的聞き取り調査やワークショップを継続.

予算案

製作費

歌とサウンドの制作（音響専門家）・歌稽古の指導料（歌手・演奏家）　100,000

公演当日の演奏料（ギタリストなど）	60,000
IC レコーダー購入費（6,459 円×3 台）	19,377
CD ラジカセ購入費（7,500 円×10 店舗）	75,000
文字起こし委託費（1 分 160 円×1200 分）	192,000
パネル制作費（10,950 円×10 枚）	109,500
学生アルバイト料（調査・文字起こし）	30,000
CD-R 購入費，楽譜・構成台本印刷費	10,000
フライヤー制作費	30,000
小計	625,877

アーティスト・フィー

作曲料（河崎純）	150,000

演奏料（河崎）	30,000
作品発表・公演演出料（河崎）	50,000
歌稽古・演奏指導料（河崎）	50,000
音楽関係プランニング・プロデュース料（河崎）	20,000
調査費（岡原研究室）	70,000
小計	370,000
合計	995,877

経歴書・参考作品事例

後藤　一樹

1983 年埼玉県生まれ．慶應義塾大学法学部卒業．映画美学校フィクション・コース第 12 期初等科修了．東京大学大学院学際情報学府修士課程修了後，ドキュメンタリー番組制作会社，新聞社を経て，慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程在籍中．日本学術振興会特別研究員．

専門はオーラル・ヒストリー研究，映像社会学，「移動民と地域おこし」の社会学．

【映像作品】

ドキュメンタリー番組『証言記録　兵士たちの戦争「台湾先住民“高砂族”の戦争」』（NHK・BS プレミアム，2012 年 3 月 4 日放送，取材：後藤）

ドキュメンタリー番組『いのちドラマチック「ニューファンドランド　命を救うスーパーボディ」』（NHK・BS プレミアム，2011 年 9 月 14 日放送，取材：後藤）

ドキュメンタリー番組『BS 歴史観“至宝”の外交史（2）「パンダ　中国

最強の交渉カード」』（NHK・BS プレミアム，2011 年 6 月 17 日放送，取材：後藤）

フィクション映画『微熱探偵ガンジー』（阿佐ヶ谷ロフト A「許されざる映画祭～映像と音楽の生々しい関係～夜の部」，2009 年 6 月 27 日上映，監督・脚本：後藤）

【論文】

「漂泊のライフストーリー――ある歩き遍路の戦後史と私」『日本オーラル・ヒストリー研究』第 11 号，pp. 147–171, 2015 年

「〈趣味〉と〈闘争〉――1920–30 年代のアマチュア映画の公共性」『人間と社会の探究：慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第 78 号，pp. 109–137, 2014 年

坪井　聡志

1991 年東京都生まれ．立教大学社会学部卒業後，慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程在籍中．

専門はオーラル・ヒストリー研究，障害者の社会学．障害を持つ自身の身体をパフォーマンス・アートで表現する活動を行っている．

【制作・出演】

河崎純　音楽詩劇公演プロジェクト「終わりはいつも終わらないうちに終わっていく」［ロシア・アルメニア公演］（作・演出：河崎純，制作：坪井，2016 年 10 月公演予定，国際交流基金，アーツカウンシル東京助成事業）

河崎純・シアター X 提携公演「Ayumi Paul Violin concert and Sound performance」（シアター X，作曲・演出：河崎純，制作・出演：坪井，2016 年）

シアターX音楽詩劇研究所「捨て子たち星たち」（シアターX，作・演出：河崎純，制作・出演：坪井，2015年）
シアターX音楽詩劇研究所「捨て子たち星たち（再演）」（シアターX，作・演出：河崎純，制作・出演：坪井，2015年）
シアターX音楽詩劇研究所「終わりはいつも終わらないうちに終わっていく」（シアターX，作・演出：河崎純，制作・出演：坪井，2015年）
響きプロジェクトショーケース2015 vol. 3「西遊記2」（タタミスタジオ，作・演出：河崎純，出演：坪井，2015年）
響きプロジェクトショーケース2014 vol. 1「西遊記―Tenjik Tenjik」（タタミスタジオ，作・演出：河崎純，出演：坪井，2014（年）

高山　真

1979年京都府生まれ．長崎大学環境科学部卒業後，東京大学大学院学際情報学府修士課程修了，慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程単位取得退学（社会学博士）．慶應義塾大学文学部非常勤講師．

専門はオーラル・ヒストリー研究，戦争と記憶の社会学．長崎の被爆者や被爆体験の語り部の口述史研究を通して，「語りえないもの」を追究している．

【著書】

『〈被爆者になる〉――変容する〈わたし〉のライフストーリー・インタビュー』（せりか書房，2016年刊行予定）

【論文】

「『長崎』をめぐる記憶の回路――「企業と原爆」調査の検討を中心に」『被爆者調査を読む　ヒロシマ・ナガサキの継承』（慶應義塾大学出版会，2013年）

「原爆の記憶を継承する――長崎における『語り部』運動から」『過去を忘れない―語り継ぐ経験の社会学』（せりか書房，2008 年）

プルサコワ　ありな

1991 年ロシア生まれ．日本大学文理学部社会学科卒業後，慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程在籍中．

専門は映像社会学，セクシュアリティ研究．

【映像作品】

ドキュメンタリー作品『おいしい器――芸術に出会えるまち・下高井戸』（日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室制作，2013 年）

【参加プロジェクト】

『世田谷 8 ミリフィルム・アーカイブ・プロジェクト』（公益財団法人せたがや文化財団生活工房，NPO 法人・記録と表現とメディアのための組織，日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室，2015 年より継続中）

『“写真で語る：「東京」の社会学” プロジェクト』（日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室，2014-2015 年年度）

『wanna live TOGETHER――その旗は私たちの誇り』（2015 年）

『日本橋に福徳を芽吹かせる神社――後景としての三井 vs. 三菱の街づくり』（2014 年）

岡原　正幸

1957 年東京都生まれ．慶應義塾大学経済学部卒業．ドイツに留学して演劇学を専攻後，慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程修了．慶應義塾大学文学部教授．

【著書】

『黒板とワイン――慶應義塾大学「三田の家」の実践』（慶應義塾大学出版会，2010 年）など

【地域連携プロジェクト】

『三田の家』（2006 年～2013 年）

港区芝商店会，港区との地域連携プロジェクトである．

公式 HP　http://mitanoie.net/legacy/

『慶應義塾大学 SKC（信州小諸キャンパス）』（2015 年より継続中）

長野県小諸市，小諸駅前相生，商店会，市役所観光課，地域住民との連携プロジェクトである．

公開 Facebook　https://www.facebook.com/groups/1605955049694289/

写真（左）：住民宅の空地を借り，穴を掘る．自然と人が集まる．
写真（右）：お絵描きハンモックを子供たちとつくる．

写真（左）:「こもろび」というアートイベントで，映像他を展示する．
写真（右）:「Komorobook」．祭礼で賑わう小諸，多くの人がチェックインする．

河崎　純

1975 年東京都生まれ．早稲田大学第一文学部仏文科卒業．コントラバスを齋藤徹，吉沢元治に師事．主に，舞台作品の音楽監督・構成，委嘱作品の作曲のほか，主宰・参加アンサンブル多数．

【舞台音楽家・演出家として】

現代演劇，ダンス，音楽劇を中心に，これまで 70 本以上の舞台作品の音楽監督，作曲をおこなってきた．歌，声の表現，朗読，演劇，コンテンポラリーダンス，伝統芸能の要素を用いた詩劇，音楽劇の作・構成・演出もおこなう．舞台芸術で音楽を担当した主な作品に，日本舞踊公演西川千麓「カミュ・クローデル」，ポルト B「ブレヒト演劇祭の約 1 時間 20 分」（高山明演出），静岡県舞台芸術センター（SPAC）「大人と子供によるハムレットマシーン」（ハイナー・ミュラー作），江戸糸あやつり人形座「マダム・エドワルダ」（ジョルジュ・バタイユ作）など．

ユニット普通劇場，企画朗読者 in Kawaguchi 音楽監督も務める．2007年劇場シアターXと打落水狗で詩と音楽の「詩の通路」ゼミ，公演を企画，進行も務める．2015年，シアターX音楽詩劇研究所主宰，講師としてシアターXタデウシュ・カントール生誕100年企画にて「捨て子たち星たち」，「終わりはいつも終わらないうちに終わっていく」の2作品の演出，作曲をおこなう．2016年「終わりはいつも終わらないうちに終わっていく」で，アルメニア，ロシアのシアターフェスティバル，現代音楽フェスティバルに招聘（国際交流基金，アーツカウンシル東京助成事業）．

【教育活動・ワークショップ・地域活動】

音楽，歌，演劇，舞踊，朗読など様々な舞台芸術の手法をもちい，創作，ワークショップをおこなう．また，教育施設，福祉施設での講義やコンサートもおこなう．2012年より立教大学文学部文学科文芸・思想専修演習授業ゲストスピーカーとして全授業での講義，発表公演の作・演出，音楽を手がける．桐朋学園演劇科，河合塾コスモ，ハンガリーブダペストリスト音楽院，モスクワグネーシン音楽院，作文表現塾などで，講師として学生や子供との共同作業．その他劇場施設ではシアターX「詩の通路」，音楽詩劇研究所主宰・講師．埼玉県川口市では継続的に地域，公共企画，有志オンブズマンとの企画に参加し創作に携わる．川口市立美術館アトリアで子供を対象にしたワークショップを担当．朗読者 in Kawaguchi では音楽監督として，美術施設，寺社，文化財等さまざまな企画で公演．株式会社 BF.REC 主催ワークショップでは，銭湯など，サイトスペシフィックなワークショップを担当．2007年，東京北区地域 NPO 施設企画にて地元高校生の演劇へのアドヴァイザー，音楽監督を務める．2008年，静岡県袋井市月見の里学遊館アートスクール音楽クラス講師で，五線譜を用いない図形楽譜などの作曲ワークショップをおこない，同手法をもちい盛岡市でもワークショップをおこなう．